

島松だより

Vol.26

題字・絵／田川正悦



日本キリスト教団
島松伝道所

〒061-1351

北海道恵庭市島松東町4丁目1-8

牧師／辻中徹也・辻中明子

電話・FAX／0123-36-7275

<http://homepage2.nifty.com/simamatu/>

それどころか、体の中でほかよりも弱く
見える部分が、かえって必要なのです。

コリントの信徒への手紙 ー 12. 22

すべての人がその人らしく 辻中 徹也

島松伝道所をお支え頂いておりますこと心より感謝申し上げます。私たちの群れは、すべての人がその人らしく暮らしていけることを、願ひ祈っております。

二十三年前、「障がい者と共にある教会形成」を目指して、地区に島松宣教協力委員会が組織され、全国に募金を呼びかけてくださり、祈りを共にしてくださったほんとに多くの皆様に支えられ、歩んでまいりました。

「弱さは、神様の愛を受け取る窓口です」という故滝口孝牧師の遺された言葉は、私たちに共通する神様との出会いかもしれません。

もう十三年前、着任して二年目の夏、予定が混みすぎて「うつ」で入院しました。その後も達成すると「そう」

疲れすぎると「うつ」の繰り返しで、医者からも「これだけ続いたらまず治りません」と言われもしました。ある年、浦河伝道所&浦河へてるの家と島松伝道所の共同研究を行ないました。病気の牧師とどう付き合えばいいのか？家族はどう付き合えばいいのか？そんな問いへの答えを教会も家族も求めたのだと思います。私自身もそうでした。研究作業の最後を締めくくったキャッチ・コピーに笑いが起こり、私たちは勇気づけられたのです。「弱さを元手にけじめなく！」共同研究から生まれた言葉です。

「弱さを元手にする」なんていうことはなかなかできることではないでしょう。だいたい自分の「弱さ」を見た

くないし、弱いなら強くなるうとするでしょう。でも決定的に「弱い」自分と出会ってしまったとき、「私は無力です」と祈ることしかできません。力を抜き、遠くを眺め、歩き始めるとき、すべての人がその人らしく、弱さを元手にけじめなく生きていけることを、神様が与えられる愉快な可能性として実感します。それを共に喜ぶことが私たちの原点であり、ゴールです。弱さを元手にけじめなく、主イエス・キリストの恵、神の愛、聖霊の交わりによって私たちは遣わされています。

教室の同窓会があり、懐かしい顔それぞれに会堂を「味がありますね」と誉めて下さり、記念写真をマギー夫妻に届けて下さいました。地域が町からやってくる。ゆっくりですが、喜びがたぎ合わされていきます。

「木の教会 コンサート」Vol.4と「木の教会 こころの講座」Vol.1も実現したばかりです。

祈っていることは、今の時勢、休まない勤務で疲労こんぱいし「無力だ」と言いたくても言えない人々に、また、働きたくても仕事がない人々に神が力を与えてくださること。痛みや病を抱えながら日々を生きる一人一人に神の癒しの力が注がれること。すべての人がその人らしく、毎日を暮らしていける世界が実現すること。

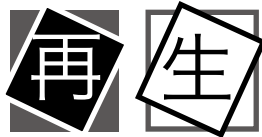
「心底貧しい者には神の力がある」
(マタイ5:3 本田哲郎 訳)



会堂がまずは内部だけです。古いのと新しいもののコントラストが鮮やかに「まっさら」に再生しました。私たちには夢があります。古びた他の部分も少しずつ再生させ、主にある交わりである教会が地域に生きることです。地域の人々は、新しい礼拝堂を見て一緒に喜んで下さいます。ピアノ教室の送り迎えのおられるおばあちゃん「前はバラックでしたもんね」と笑顔を見せて下さいました。幼稚園の卒園生で我が子が同級生のお母さんは、「ここでゴスペルのZessie先生のレッスンが実現するって不思議！」と。「私が借りているスタジオよりいい！一人一人の声がちゃんと聴こえます」と、Zessieさんも絶賛！新たに油絵サークルの活動も始まっています。ハンドベル・コンサートの後、「写真撮ってもいいですか。こんな機会をぜひまた作って下さいね。」と励ましを受けました。ジョージ・マギー宣教師の英会話

島松会堂建築物語

— 第2章 —



感謝！ 特集

はじめに

2008年11月、多くの方々の祈りに支えられ、礼拝堂部分の再生工事が終了。

あれから1年、私たちと会堂を用いて、神さまは何をなさろうとしているのか。

ゆっくりと島松の活動も、希望に導かれながら地域に向けて再生始動です。



「ゴスペルコンサート」

伊藤 周子

再生された会堂の引渡しが二〇〇八年十一月二十九日。そしてその次の日にゴスペルコンサートが予定されていた。コンサート当日までに会堂は完成するのか、ピアノの調律は間に合うのかと、はらはらしどろしどろの十一月でしたが、神様を賛美する歌声に、主が祝福してくださったのでしよう。会堂再生記念感謝コンサートとして、予定通り行うことができました。名づけて「木の教会コンサートvol.1」。

開場からぞくぞくと七十人もの地域の方が駆けつけてくださり、パワフルなゴスペルが始まりました。会堂は熱気にあふれ、ほとんどの人が手拍子したり立ち上がりリズムに合わせて踊ったり。アメージンググレース・オーハッピーデイ・ジョイフルジョイフル等、よく知られたゴスペルやクリスマス賛美歌では一緒に歌い、クワイヤーと聴衆が一つになって楽しい時を過ごすことができました。

建築家×音楽家の畠中秀幸さんによると、会堂の壁のルーバー（垂木）には、壁の表面積を広くして音の広がりを持たせながら、反響しすぎないようにする効果もあるのだとか。また、蛍光灯ではないぬくもりのある照明に、なにか心をほっとさせる心地よさを感じました。

仕事や生活の中で疲れたり、思うよ

うにならないもどかしさ覚える日々の中、ゴスペルコンサートは私たちの心に、癒しと元気を与えてくれました。二〇〇九年も十一月の終わりにゴスペルコンサートが予定されています。毎年恒例の行事として、地域に広まっていくことを願っています。



「会堂再生献堂式」と 「耳をすますと春が聞こえる」 木の教会コンサートvol.2

亀岡 徹

島松伝道所創立五十五周年記念日として迎えた三月十五日。私たちは、昨年様々な出来事や出会いの中から完成した会堂の再生を記念する献堂式を行いました。昨年の「島松だよりZONG」島松会堂建築物語第一章でもたっぷり



「耳を澄ますと春が聞こえる」
木の教会コンサートvol.2
アンサンブル・シンフォニカ



会堂再生献堂式記念写真
2009年3月15日

紹介しましたが、畠中さんによる建築は、ご自身もフルート奏者であり音楽と共にある建築をモットーにされ、まさしく島松はその格好の作品になりました。創立記念礼拝後の「アンサンブル・シンフォニカ」の皆さんによるコンサート演奏は、座れない方が出るぐらいたくさんの方々が集い、豊かで木の心地よい音の響きを感じながら贅沢な時間を過ごすことができました。コンサートに引き続き「会堂再生献堂式」を地区や教区の120名ほどの方々によって無事執り行うことができました。当初は、礼拝堂だけの献堂式は必要ないかなという意見もあり、実際建物の外見は何も変わっていませんので「あれ何も変わっていない献堂式？」と思われた方もいましたが、あくまでもパート1の「島松伝道所再生献堂式」。多くの方に支えられ励まされ「感謝！感謝！」の島松らしい献堂式を過ごすことができました。

「会堂利用」

伊藤 周子

寒かった教会が温かくなった！
これは大きな喜びです。夏、外は暑くてもなぜか中に入ると涼しい冬になると、いつも一枚余計に上着を着込んで礼拝するに臨むのが当たり前。冬になると、「ゴーツ」というヒーターの音が終わると一気に寒くなり、毛布をひざにかけて震えているというのが定番の島松スタイル。そんな会堂が、あったかい教会に生まれ変わりました。やったあー！！

こんなにあつたかーくなった会堂が、日曜の礼拝にしか使われないなんてもったいなさ過ぎる・・という事で、地域を含めたくさんの方々に使っていただきたいと昼は一時400円・夜は一時500円という格安の会堂使用料を設定しました。

さて、新しくなつてどんなことに利用されているのかでしょうか。まずは、お泊り会。小さなお子さんたちも一緒に苦小牧地区の牧師宿泊交流会。女性教師のお泊り会。島松に集う子どもたちのお泊り会。寝袋の背中がほんのりと温かくて、すーっと眠りに誘われていきます。また、今年度からこの会堂を活動場所にして、油絵教室「ななかまどB」とゴスペルクワイヤー「ボイスオブブレイズ」が、新たに活

動を始めました。落ち着いた雰囲気と木のぬくもりが評判です。「ここにくるとほっとする」といううれしい声を何度も耳にしました。もつともつと多くの人に使ってほしいなあ。

コンサートにももつてこいの会堂。今まであった天井を抜いてルーバーを壁に取り付けたことで、歌・ハンドベル・ピアノ・フルート等、アコースティックな音がとても柔らかに響きます。

地域の方々にここに教会があることを知っていただき、地域の中にある教会として身近な存在になれるよう、発信していくのが、教会員みんなの願いです。



「木の教会コンサート」Vol.3
北星女子中高ハンドベル・クワイヤー・コンサート

「健康と病について」の考え方 Vol.1

『健康と病について』の考え方

くじょうずに病氣と

つきあいましょう

辻中 明子

体育の日の教会バザーを恒例にしましたが、今年は不調者も多く、無理をしないことになりました。しかし、地域の方々との出会いの時として大切にしてきた日でもあり、何か別のプログラムは出来ないかと語り合いました。

私たちの主治医でもある心療内科の高塚直裕先生の講演は、実は以前から温めてきたプランでした。何度助けられてきたことか。調子の悪い時こそ、力を抜いて自分をなぐめるようにサポートしてください。地域の方々にも、そのような話を必要としている方がおられるにちがいない。

十月十二日、コーヒーと紅茶を準備し、いくつもの小テーブルを囲むようにした会場に四十名近い方が集い、和やかな講演会となりました。

「健康とは、その人が、その人らしく、その人なりの生活が出来ていること」健康は道具であって、(人生の)目的ではない」と、病氣の有無とは異なる次元を語られました。「病氣もその人を守るための、身体が教えてくれている信号である」「ストレス自体は悪いものではなく、自分にとって何がストレスとなっているかを知り、その受

け止め方以外はないだろうか、と周りを見まわし、それからゆっくり少しずつ変えてみる」と。調子が悪くなる時のパターンや、回復への道行きを、分かりやすい言葉でユーモアを交えての話は、日だまりの中にいるような気分でした。

私たちの教会も、病氣や弱さが絆となつて、多くの仲間を得て歩んできました。相変わらず、病氣や弱さや困難はありますが、向きあい方や、受け止め方がうまくなっているように思います。「浦河べてるの家」流にいうなら、病氣は解消しないが、生活が回復するということでしょうか。しかし、まだまだこのテーマは続きます。講演への活発な質問を聞きながら、Vol.2の開催を心に決めました。



「妄想」の彼方の未来へ

大西 真言

「私には妄想がある!」

教会と公園と直角三角形を成す市のプールが撤去され空き地になった。宅地として売り出されているがまだ売れていないようだ。結果的に売れ残って、ビシッと舗装され管理された駐車場ではなく車も止められる空き地、公園利用者が車を止め、教会の催しに必要な時にも止められる空き地、いわば「入会地」注)のような形で残していけないだろうか?

虫のいい話かも知れない。でも、(お金がなくて買えないのが本音なのだが)土地を教会のものにしてしまおうでなく、人のふんどしで相撲を取るのが島松スタイルなのではないか?そこに行政への依存ではなく、地域の方々との接点という意味を見いだせないだろうか?

そして、その空き地の道沿いには少し木陰がある方がよい。

先日ある町で、木を植える取組みに参加して勉強した。島松の山や防風林で採ってきたドングリから苗を育て、地域の人たちも巻き込んで木を植えてみたい。ちょうど、メイとさつきが月夜の晩に「となりのトトロ」(となり人)とやったように・・・。

妻は教会での「地域食堂」を夢見

ている。彼女は保健師をリタイア後、そこに集うお年寄りや子育てに疲れた親たちの相談相手になることを思い描いているのだろうか?

昨日ある町で、「サケが大海から川に戻ってくるように」都会・社会に出て行った子ども達が戻ってくる故郷・里山づくりに取り組んでいる人達の思いを聞いた。そういえば大人の礼拝の間、連れだつて公園で遊んでいた子ども達の姿が見えなくなつて久しい。巣立っていく彼ら彼女らがいつの日か戻ってきて、地域食堂のシェフやカウンセラーを担ってくれないだろうか?

この様にして私たちの教会が、地域に「痛みや病を抱える全ての人々の日だまり」になっていく。そして私は人を威圧するような声から脱皮して、「人の心を癒すような歌声をこの会堂に響かせたい。」そんな「妄想」を抱きながら日々修練に励んでいる。

注)入会地(いりあいち)

かつての村落共同体で構成員が共有し利用していた土地。多くは燃料としての薪炭材などを得る里山や雑木林であった。



しままつ野菜だより

旬鮮便 第七号

ことしも、多くの方々に応援していただき新鮮野菜をお送りすることができました。

初めてのグリーンアスパラ、悪天候が続き収穫が例年より一ヶ月近く遅れた、「とうもろこし」など、ハラハラした時期もありましたが、あと十一月のゆりねで今年度の発送を終えます。ありがとうございます。

みなさんからの声を ご紹介いたします。

*アスパラおいしくいただきました。柔らかく新鮮でいくらでも口に運べました。ご近所にもおすそをわけ、皆さんに大変喜ばいただきました。

(大阪Mさん)

*とうもろこし、とってもおいしいです。世界一。

(広島Mさん)

*とうもろこし、教会でこどもたちにわけます。

(広島Kさん)

*ご奉仕に主のみ手が添えられますように。道南の唐黍(もろこし)届き鼎談す。

(京都Sさん)

*さつそくポテトサラダにしましたヨ。

(京都Gさん)

*毎日元気をもらっています。

(大阪Tさん)

吉田農場ホットニュース

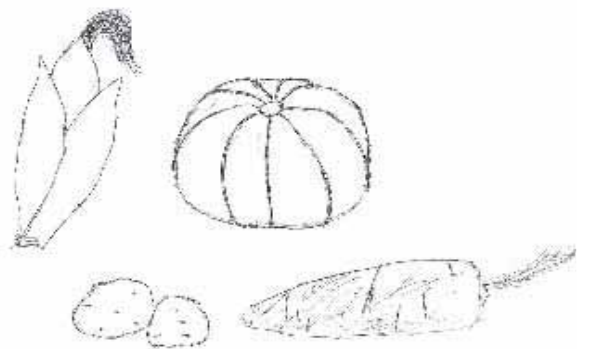
○かあさんやギが三匹子どもを生みました。豊かなお乳は、三匹には余る程。吉田さんは、ミルクとしていただき、またバターにも加工しています。

○悪天候のため収穫できない日々・・・吉田語録『これだから、思うようにならない自然相手の仕事は、楽しい』

(さすがー深い・・・)

○農場民宿には、本州の修学旅行生もやってきます。官僚を多く輩出する東京の高校も数日間農場体験し、最後の一日だけ札幌観光とか。この経験生かして下さい、日本の未来へ!

○ご意見や、感想、発送状況等、いつでもおたずねください。(あ)



証あかし



深いトゲの あるままでも・・・

大西由香里

生まれも育ちも室蘭であつた私が島松に転居してきたのは十五歳、高校入学の春である。実はその一ヶ月半程前に父が胃がんで亡くなっており、母は実家の家業を手伝うということで故郷島松に戻ってきた。島松伝道所は母の母教会でもあったが、私もここで土橋修先生から洗礼を授けていただいた。進学や就職、結婚を機に何度か島松の地を離れたが不思議とまたここに戻ってきている。

高校卒業後、看護職になるために進学し助産師として社会人一年生になった。若さ故に無謀だったと思うのだが、とにかく早く一人前の助産婦になりたい一心で地方の病院に就職した。就職して二年目、自分が分娩当直だった夜、十六歳の飛び込み出産事例を扱うことになった。「腹痛」と言つて同じ年頃のパートナーと救急車で来院した彼女のそれは、まさしく「陣痛」で分娩が切迫していた。お腹の子どもの心音は弱々しく死産となってしまうことが予測され、急いで医師を呼び緊急帝王切開での出産となった。子どもは重症な仮死で誕生に時間がかかり、後遺症を残す可能性があった。手術前に何とか家族に連絡を取り付けて病院に来てもらったが、娘の妊娠については「全く知らなかった」というばかり…。

親が何故に娘の生活や身体の変化に気づかないのか？ 学校や周囲の友人達も知らなかったのか？ もう少し早く何とかならなかったのか！ と悔やまれた。彼女に産まれた子どもへの愛情とか命への責任を求めることは酷だ

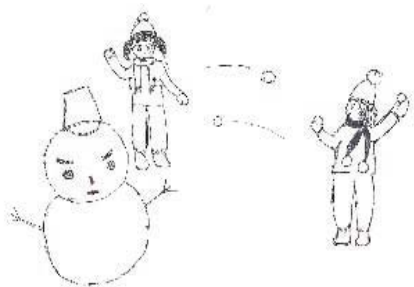
と思う程、未成年な状況だった。この事例との出会いがやはり大きかったと思うのだが、思春期の子どもの達のこと、家族というものの有り様、家族が生きるコミュニティといったことに関心が深まり、病院は三年で退職して公衆衛生、地域看護を学ぼうと保健師過程に入学しなおした。そして卒業後、保健師として働いてかれこれ二十一年になる。

現在、私は道立保健所で児童思春期の精神保健や母子保健活動に携わるボジションにいる。母子保健活動の目指すところは思春期から、また妊娠・出産・子育てをとおして母性と父性を育み、児童が心身共に健やかに育つことにある。今、なんといつても私たちの活動の中心課題は児童虐待を予防していくことにある。そもそも子育てに伴うストレスや葛藤を克服していく過程は、親としての育ちに必須なものである。しかし、親の対処能力を超える時、抵抗のできない弱者に攻撃性が向けられることがある。自分自身の子育てを振り返ってみても、様々な困難があり、感情のままに叱ったり思わず手をあげたりした苦い思い出もある。辛い多くの支えがあったから何とかやってこられただけである。こう考えると虐待問題は社会から逸脱した特別な人の問題ではなく、普通に毎日を暮らす人々の延長線上にあるのだと思う。

しかしながら出会う人々は本当に様々と声高に訴える人、アルコールや薬物に依存し子育てがほとんどできない人、リストカットや大量服薬を繰り返す人、子どもが何をしようが全く無関心な人…等である。でもそんな彼らの背景には、経済的困難があったり世代間にまたがる家族の繋がりのひずみがあったりと、個人の資質や努力の問題でくめないことも多くある。そうは言ってもそこに子どもの命が危機にさらされていると、「いったいどうして！」と途方に暮れるのである。

聖書には様々な箇所に主イエスが子ども、病む人、人から忌み嫌われ虐げられている人々を丸ごと受け入れたことが書かれている。周囲からなんと言われようともである。その愛の深さ、潔さには驚くばかりである。

人は弱さや痛みをできるだけ見たくない、引き受けたくない、意識的あるいは無意識的に差別する心に支配されている。紛れもなく私自身が、であるそれは簡単には抜けない程深いトゲでもある。しかし、トゲのあるままでも許されてこの世に遣わされていることに、ただただ感謝である。出会わせてもらえる親子が、地域で安心して暮らし続けられる条件整備をひとつとしていきたい。そんな私の役割が許される間は働かせて頂きたい。



チルチル島チルく都市へ散るく 『島松の信徒への手紙』

『毎日自転車!!』

塩見 和樹

大学に入って半年、熱心に続けていることがあります。それは『通学』。なんてことないことですが、実は家がある左京区岩倉町から大学までおよそ十キロ!!それを自転車です。通学について紹介します。今日は僕の通学について紹介します。通学には毎日一時間ほどかかります。しかも近所に小中高が集まっているため、朝は通学ラッシュに巻き込まれてしまします。信号も多いです。道もせまいです。半年たった今でも、正直面倒くさいと思っています。

僕が自転車通学をしている理由は電車を使うことは極力避けたいからです。「え」と、片道250円やから往復で500円、週4回学校に行くから4で2000円。ってことは月8000円もかかるやんか!!」何を隠そう金欠学生なのです。

そんな嫌や嫌やと言っている通学にも最近は新しい楽しみを見つけました。今時期の岩倉町の朝は少々の肌寒さはあるけれど、北海道にも負けないくらい清々しさがあります。中学生の後ろをゆっ



鴨川をバックに愛自転車とのツーショット。
タイヤの空気もうスカスカです。

くり自転車でこいでいると重いまぶたもすっきりしてきます。また少し進んでいくと鴨川沿いの道に出ます。この道は春には桜が満開、夏はホタルが見えるほどの美しさがあり、毎朝この道を通って心の洗濯をしています。お勧めスポットです。しばらく進むと北大路通りというお店が並び通りに着きます。朝はお店の開店準備をしている人たちが賑わっています。そして烏丸通まで出て大谷大学、鞍馬口を通り、同志社大学につきます。自転車通学を始めた四月は毎日の通学だけで体が疲れていたのですが、最近では十キロの通学も苦にはならなくなってきました。しばらくは続けていけそうです。これからは勉強と同じくらい熱心に自転車通学を続けていきたいと思っています。

『ハンドベル、うどん、etc.』

辻中 啓太

僕は同志社大学ハンドベルクワイアのリーダーこと「声かけ係」をしています。

昨年のクリスマスシーズンに、同志社女子大学の新島記念講堂で燭火賛美礼拝がありました。僕はその礼拝中に行われる聖書劇に羊飼いの役で出たのですが、同志社大学のハンドベルクワイアと出会ったのはその時です。出番を待つ間、ステージ脇で緊張しているとハンドベルの演奏が始まり、その音色に心を奪われて僕の緊張は吹っ飛びました。ハンドベルって簡単そうで奥が深いのだなと思えました。そして打ち上げの時にハンドベルクワイアが実は人数不足の存続の危機であると聞いて、「そりゃいかん!」と思い「僕で良かったら入ります。」ということでした。チームに入るようになりました。しかも僕は初心者だったのでベルの持ち方も分からないような状態だったので、チームのリーダーを任されることになってしまいました。新入部員をゲットするために走り回ったり、演奏会を企画して何とか成功したり。この一年は色んなことがあり、なんと今ではメンバーが約三倍(四人↓

十三人!!)に増えました。そして今は来たるクリスマスシーズンのために一生懸命練習しています。

それと今はアルバイトもバリバリやっています。それも創業七十年を越える老舗うどん屋です。とてもいいお店で、修学旅行生(妹の歌も来店した)から地元政治家まで食べに来るような店は他にあまりないのではと思っています。本当に忙しいバイト先ですが、お店の方からも「卒業するまでよろしくね!」と言って頂けていて、野望の一つである高校の青春をともしたトロンプーンを再び吹くための資金と生活費作りを頑張っています。帰った時に天井の高くなった会堂で吹くのが楽しみです。

これだけでも生活が充実していると自分でも感じますが、今年は他にも本当に色んなことを経験することが出来ました。勉強も楽しいです。こんな感じでこれからもエンジョイしてぼちぼちやっていこうと思います。



あの鐘を鳴らすのはアナ〜タ〜

※ベルは本物ですがこのうどんはフィクションです。
普段食べているうどんとは異なります。

いま熱心にやっていると。熱いこと。高卒編

塩見ひかり

私は今カナダに留学してホームステイしています。たった4カ月という短い期間ですが、異文化での暮らし、言語の違い、たくさん宿題に追われ、充実した日々を送っています。ホームステイのファミリーはとても優しく、毎日

「今日は何してきたの？」などと聞かれて会話したり、間違った英語を使うと丁寧に教えてくれたりして日常生活全てが良い刺激になっています。大学の授業では半分は英語の授業、もう半分は学部の専門の授業を受けています。英語の授業では英語でスピーチをしたり、プレゼンテーションをしたりと大変ですが、少人数のクラスなので英語を話す機会はとて多く、他のインターナショナルクラスとの合同授業もあっているんな国の人と話したりできるのでとても楽しいです。私は農学部生物環境学科なのでもう半分の授業は主にカナダの自然に触れながら生態系、環境問題、植物、動物について勉強しています。もちろん全て英語の授業だし、課題も大量に出て、今では宿題がないと言える日は授業が始まった時から一度もないくらいです。でも毎週のようにフィールドトリップに出かけ、その度に本当にカナダは綺麗なおとろだ

と何度か思います。山に出かけると野生のリスやワシ、キツツキがいたり、他にも本当に空気がきれいで、森の中を歩いて行くときなどは本当に気持ちがいいです。日本にいたらこんな絶対ないだろうなと思うことだらけで、クラスメイトともすごく仲良くなつて家族みたいでとても楽しいです。日本が恋しいと思うこともありませんが、自分で日々成長していくのがわかり、毎日がとても充実しているの、今、このカナダ留学を遊びも勉強も精一杯満喫しています。



with ホスト・ファミリー

この一年、二人の教会員が与えられました。感謝して、パワフルなお二人をご紹介します。

New Member

「キリストの中には僕がある」

塩見 和樹

「今回、この時期に洗礼を受けようと思った大きな理由として、僕は春から同志社大学神学部編入することが先日決定したのがあります。幼い頃から教会に通っていた者として、これは人生、1つの再出発点だと感じました。昔、牧師館に住んでいたときは何となく親から教会に通わされている感じでした。北海道に引っ越したばかりの頃は教会学校に行くのも面倒になったし、中学、高校は部活もあり、教会に関する意識も「しょうもない」と考えるようになり教会に行くことも少なくなっていました。しかしキリスト教の大学に入ってキリスト教に対しての考え方がいまの自分にとっても影響があり、関心が湧いたと同時に教会に対する考え方も少し違って見るようになりました。また今回の編入試験を通して現在社会福祉学部で学ぶ僕にとってイエスの教えとは決して遠い存在ではなく、むしろ僕の学んできたことはイエスの弱い立場に立たされる人たちに対する考え方とすごく近いのだと考えました。僕の中にはキリストの考えがあり、キリストの中には僕がある。このことを知り、今回洗礼を受けようと思いました。」（2008年クリスマス礼拝式で）

洗礼を機に自分を再出発した私は半年経った今、新たに通う大学、教会でキリスト教や教会について学ぶ充実した毎日を過ごしています。これからも

『私の中にはキリストがあり、キリストの中に私のあり方がある精神』を忘れず、また神様がいつも共にいてくださることを覚えていきたいと感じています。

「恵」

鷹見 環奈

私が島松伝道所に通い始めたのは、3年前の8月だったと思う。

主人の勤務で、あちらこちらを転々としながら、留萌の宮園伝道所に行き「神様はいつも私達を愛して下さっている」という言葉に出会い“私もここに居ていいんだ”という気持ちで、6年が経ちました。

その間、統合失調症という病気になりましたが、これも恵みだと考え、おかげでいろんな人との出会いがあり、やさしく見守って下さったことに感謝しています。

その後の引っ越しの時は、神から見はなされたのかと思いましたが、近くにちゃんと、用意されていたかの様に島松伝道所がありました。

びっくりです。感謝します。アーメン



編集後記

いつもお支えありがとうございます。今年も飾りつけがない本音丸出しの「島松だより」がやつと出来上がりました。この一年も様々な出会いと出来事がありました。最後まで読んでください。今回は、特にレイアウトの重責を担った徹也先生お疲れ様でした！

亀岡 徹

今年もクリスマスがやってきます。『もしあなたがいないかったら、この笑顔もないことでしょう』とうたうゴスペルの曲があります。イエスさまがいたからこそあるクリスマス、気の合う人たちと過ごすのも楽しいけれど、平和や人々の心の平安に向けて何ができるのか、考えるときにもしたいなあと思います。

伊藤 周子

島松写真クラブが始まった。きっかけは礼拝堂ルーバー。と、写真ブーム？みんな結構普段の気になるシーンを携帯やデジカメに納めている。それをプリントしてルーバーに並べてみた。おしゃれな空間！「お気に入り一枚」が増えていくのが楽しみです。

塩見 昭代

昨年のクリスマス、京都の教会へ祝電を送った。6年前進学でここを離れたS君の受洗の祝電。生まれた時から両親を始め、教会の中で静かに育まれていた信仰。忙しい学生生活の中で彼が選び取った道を心から喜んだ。高校卒業後都会へと旅立つ若者達。小さな教会は急に寂しくなるが、地方の苗床教会として託された役割を喜ぼう。でも密かに「サーモン伝道」（鮭のように、いつか生まれの所に戻る？）を夢見ている。今号は会堂再生後の島松を中心にお伝えいたしました。機会があれば、ぜひ一度お出かけ下さい。

辻中 明子



日本キリスト教団 北海教区 島松伝道所 宣教活動推進募金のお願い

苫小牧地区 島松宣教協力委員会

～ 島松伝道所の歩みを覚えてお支えください ～

募金要領は下記を
ご参照ください

「やさしさをもたらえる島松の教会」

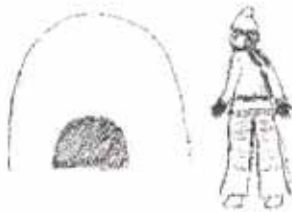
苫小牧弥生教会

北島 三枝子

もう何年も前のことですが、同じ教会のメンバーと未信者の連れ合と島松のバザーを手伝いに出かけた時、連れ合は「若い人が多く活気あるな、もう少しテキパキと働けばもっと売れたのに」と言いました。私は、島松は出来る人も出来ない人もみんな同じ役割をする教会であると告げたことを思い出しました。苫小牧地区は共同牧会を実践しています。そのきっかけは、都会から来られた苫小牧弥生教会の牧師と小さな町で孤独に牧会されている牧師との出会いでした。隣の教会を知ろうと点と点、そしてさらにそれが地区内へとつながりました。

そんな中で島松伝道所は「障がい者と共にある教会形成」を目指したのですが、今でもその心は引き継がれていると感じています。トゲトゲしくなってしまう私の心が、島松の人に出会うことによって優しくされることが多くあります。今、所属する教会の財政も困難ですが、他の教会に献金を捧げている地区内の教会のメンバーは素晴らしいと思っています。

島松の地域は野菜の産地です。全国の皆さんに美味しい物を少しでも食べて頂き、そしてやさしい島松の働きを少額でもお支え下されば感謝です。



「ぬくもり」

洞爺湖教会

代務者 鈴木 恵

島松伝道所に初めて出会ったのは、8年前の冬。白く厚い雪をかぶった会堂はかまぐらのようにも見え、ほのぼのとした印象でした。迎えて下さった方々の笑顔が温かく、ホッとしたのを覚えています。

このかまぐらの中が意外と寒かった！でも、あまり気になりませんでした。人のぬくもりのせいだと思います。そこで出会う笑顔には、心に灯をともしような優しさがあるのです。それは、困難や痛みに向き合い続ける中で得られた確信、希望という力強さでもあります。

「弱いときこそ強い」を体現する島松伝道所。とにかく語り合う、祈り合う中で力を得、悩んだり苦しんだりするのを隠さない教会だと思います。本当に大切なことを見つめようとするまなざしが、あのぬくもりを生んでいるのかもしれない。

そして、会堂の「再生」で、木のぬくもりも加わりました。心だけでなく、体もポカポカになる島松伝道所、あと寒いのは懐だけ…。たくさんのぬくもりをいただいている一人として、その寒さを少しでも温かくする働きができればと願っています。

募金に賛同して下さる方々 (敬称略・順不同)

久世そらち【北海教区議長】、笠田 弘樹【同副議長】、日向 恭司【同書記】、山本 光一【同幹事】、石垣 雅子【弘前学院聖愛高校宗教主任】、糸井 国雄【隠退教師】、入江 清弘【香椎教会】、岩井 健作【隠退教師】、宇野 稔【倉敷水島教会】、榎本 栄次【無任所教師】、大門 義和【島之内教会】、鬼形 恵子【横浜英和女学院中学校宗教主任】、岸本 和世【隠退教師】、黒多 健【向島伝道所】、小西 望【仙台北教会】、塩見 耕一【北星余市高校宗教主任】、滝口 宣【単立 日本キリスト教所沢教会】、武井 義定【松山古町教会】、中谷 哲造【隠退教師】、中村 博【今治教会】、西尾 市郎【うるま伝道所】、野本 真也【同志社大学理事長】、平田 義【愛隣館ディケアセンター所長】、府上 征三【洛陽教会】、藤田 公【隠退教師】、宮島 利光【隠退教師】、森脇 忠雄【梅花学園学園長】、山本 真司【同志社国際高校宗教主任・錦林教会】

募 金 要 領

- 募金目標額：3,700,000円
- 募金期間：第五期 5年間
(2007年～2011年)
- 献金方法：月毎・年毎・随時
- 郵便振替口座送金先：
02750-1-19793
日本基督教団島松伝道所